

# 大島町に活気を取り戻せ！

自然と建築の関係から生み出すまちの再生  
 指導教員 吉松秀樹教授 印

1BEB2116 内田航平

## 1. 自然とは、人工物とは

学会コンペ「建築のいのち」では建築と自然環境のことを調べ、開成町のなくなりつつある水路を復活させることを提案した。開成町にとって水路は水の恵みをもたらしてくれる大切な存在だった (Fig. 1)。しかし水路はもともとあったのではなく、人が人工的に作り出した。自然を求めておいて人工物を造る人に疑問を感じた。



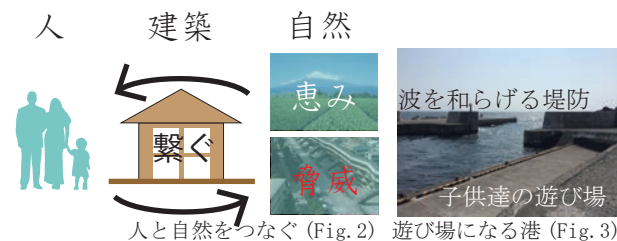
はり巡らされた水路から恵みを受ける開成町 (Fig. 1)

## 2. 1. 人と自然を繋ぐ建築

自然は人に対して豊かな恵みをもたらす。また時には脅威となり人に襲いかかる。その間に人工物である建築が入る事で自然とうまく共存してきた (Fig. 2)。

## 2. 2. 伊豆大島で感じた自然と人工物の関係

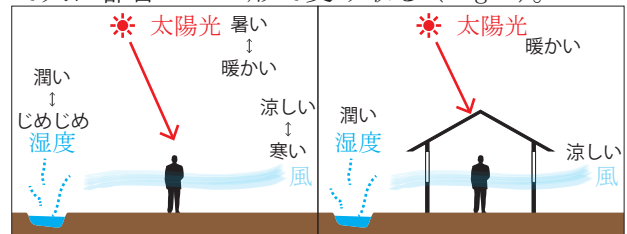
小・中学生の二年間を伊豆大島で過ごした。それまで東京で生まれ育った自分がこの二年間で自然豊かな環境のすばらしさを学んだ。しかし考えてみると遊んでいたのは人工物である堤防だった (Fig. 3)。



人と自然をつなぐ (Fig. 2) 遊び場になる港 (Fig. 3)

## 3. 自然環境と人

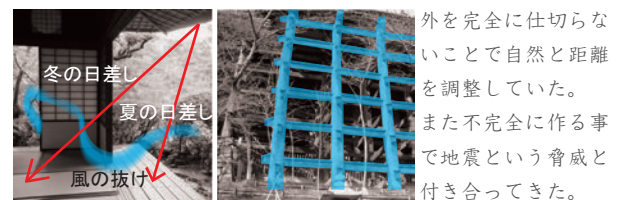
自然環境はいくつかの要因が関係し合って成り立つ。これは人にとって恵みとなり脅威となる。人単体では制御できず、建築を通して人に都合のいい形で受け取る (Fig. 4)。



建築を通して自然と付き合う (Fig. 4)

## 4. 自然と繋がっていた日本建築

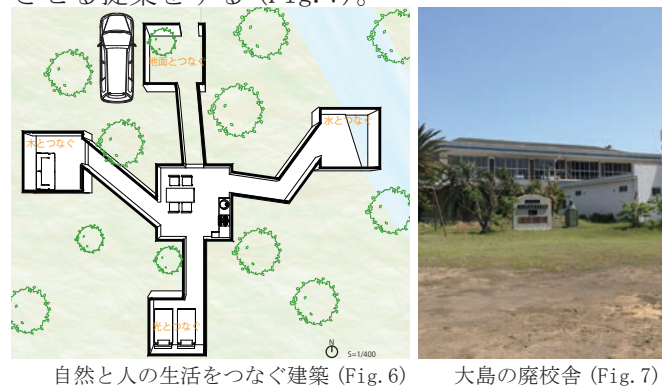
日本建築は不完全さにより自然の恵みを取り入れる事が出来ていた (Fig. 5)。



自然を取り入れていた日本建築 (Fig. 5)

## 5. 展望

離れてしまった自然と生活をつなげる事を考えてきた (Fig. 6)。豊かな自然を生かすことで人口減少などで衰退している大島を活性化させる提案をする (Fig. 7)。



自然と人の生活をつなぐ建築 (Fig. 6)

大島の廃校舎 (Fig. 7)